



大谷地区に豊かに残された歴史の足跡を訪ねるコースです。
 戦没者の慰霊及び世界平和を祈念して昭和31年に完成した「平和観音」からスタートし、
 国特別史跡・重要文化財・名勝の三重指定を受けている大谷磨崖仏のある「大谷寺」、
 多気不動尊の名で知られる「多気山持宝院」、中世の山城であり堀や土塁の跡が確認できる
 「多気城跡」、大谷石などの石を使った重厚な建物が江戸時代の豪農の屋敷構えを今に
 伝えている「小野口家住宅」、平安時代中期に造られたといわれ、かつては下荒針の薬師
 堂に安置されていた「木造薬師如来立像」のある能満寺をめぐるコースです。

大谷石について

大谷石は、今から約1500万年前に、火山の爆発によって発生した火山灰
たいせき りやくしよくぎょうかいがん
 が堆積した緑色凝灰岩というもので、宇都宮西部、大谷町を中心に産出さ
 れ、主に建築材料や石灯籠などの加工品いしどうろうに利用されています。特に建築資材
 としての利用は、古くは下野国分寺の土台石などに用いられたとされ、江戸
げんな ほんだまざすみ
 時代の元和年間に宇都宮城主本多正純によって行われた宇都宮城改修の際に
 も用いられたといわれています。

大谷石の名前を一躍有名にしたのが、フランク・ロイド・ライトの設計によ
 り1923(大正12)年に完成した旧帝国ホテルでした。全体に大谷石を用いた
 このホテルは、関東大震災でも大きな被害を受けませんでした。

市内では、旧篠原家住宅(国指定)、カトリック松が峰教会(国登録)、宇
 都宮聖ヨハネ教会聖堂(市指定)、小野口家
 住宅(国登録)、旧大谷公会堂(国登録)、
 二荒山神社の石垣など、多くの大谷石を用い
 た建造物が残っています。

